

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394400010		
法人名	特定非営利活動法人 和		
事業所名	グループホームじぶんち		
所在地	愛知県知立市谷田町南屋下88番地2		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は開所10周年を迎え、法人理念等の見直しの検討を行っている。ホームでは、入居者個々の個性や人格が尊重され、その人らしい生活を継続できるような支援をしている。入居者一人ひとりの「できること」に目を向け、家事活動、余暇活動一覧表の更新を定期的に行い、より豊かな生活づくりにつなげている。また、意見交換ページやヒヤリハット報告書で小さな気づきを出し合い、情報共有を行っている。特に今年度は、24時間シートを全職員で毎月更新し、入居者の生活状況や変化をより細かく把握するように努めている。その中で、より最適な支援方法を考えながら、語らいや笑いのある豊かな生活の実現をめざして取り組んでいる。また、行事や季節を感じるできるように1ヶ月ごとの昼食メニューを食堂に掲示し、旬の食材や調理方法に関心を持ち、「食」を楽しめるように努めている。職員は積極的に内部研修や外部研修に参加して、スキルアップに取り組んでいる。職員同士で声をかけ合い、入居者に対するより良い関わり方を見つけたせるような職員関係を築きながら日々、実践している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2394400010-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員一人ひとりが役割と責任感を持ちながら利用者への支援を行っており、日常的な職員間での意見交換の取り組みや毎月の複数回にわたる職員会議の実施等を通じて、利用者の意向等が日常の支援につながるような取り組みが行われている。職員が理念を共有し、日常的な実践を通じて、職員の資質向上にもつながるように、職員一人ひとりが定期的に理念を振り返りを行う取り組みが行われている。当ホームは、小規模多機能事業所と併設して運営していることで、地域の方との交流等は併設の事業所と一緒に法人全体で行われており、地域の方と協力しながらサロンを継続する等、地域貢献にも取り組んでいる。ホームの利用者の中には、小規模多機能事業所から移行している方もあり、利用者の身体及び精神状態や家族の状況等に合わせた柔軟な支援が行われていることが特徴でもある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年11月21日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	内部研修等で、法人理念等についての話し合いを行う中で、全職員が発言できる場面を作り、理念を共有して実践につなげている。繰り返し会議等で、どの項目に基づくものなのかを話し合ったり、理念や基本方針等に沿っているのかを確認している。今年度は、開所10周年を迎えるため、法人理念等の見直しを行っている。	法人の基本理念に基づいた職員指針と各事業所に独自の理念を掲げており、職員間で定期的に理念の振り返りを行っている。開設から10年になり、職員からの意見を集めながら理念の見直しを進めている段階でもある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の行事等に参加したり、法人内の行事に地域の方々に参加していただいている。野菜をくださる地域の方々が年々増えてきている。町内会と連携して町内のサロンの運営に参加している。	地域で行われている行事の際には、ホームからも参加している。併設事業所とも連携しながら、ホームの行事に地域の方が参加する機会をつくっている。また、地域で行われているサロンへの参加及び協力についても継続した取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事などに入居者が積極的に参加し、理解してもらえる機会は増えている。運営推進会議や町内のサロンも活用して、認知症の人への理解を深めてもらえるように努めている。また、法人内の行事への地域の方々の参加が増えて、交流する機会も増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用状況や行事等の取り組み、ヒヤリハット・事故報告書の提出状況などを報告し、話し合ったり、助言をいただいている。会議で出した助言や要望等については、その都度、対応するよう努めている。	会議の際には、併設事業所と合わせて運営状況を書面にまとめて詳しく報告しており、出席者に事業所全体の理解を深めてもらっている。また、複数の地域の方の参加が得られており、地域に関する情報交換の機会にもつながっている。	現状、家族の参加が限られた範囲である状況が続いている。ホームからの継続的な家族への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者とは一ヶ月に1~2回程、市役所に行った際、現状を報告し、助言をいただいている。運営推進会議の案内や議事録も出している。地域ネットワーク会議に積極的に参加している。	市の担当部署や地域包括支援センターとは、定期的及び随時の情報交換の機会をつくっており、事業所全体の運営に反映する取り組みが行われている。また、市の介護相談員を通じた情報交換等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員で身体拘束の研修を行ない、身体拘束をしないケアを常に意識しながら支援している。ヒヤリハット報告書の提出を推奨し、必要に応じて会議等で検討するなどして職員間で情報や対応策を共有している。スピーチロックについても、声かけの仕方を工夫している。	身体拘束を行わない方針のもと、併設事業所の職員と連携しながら利用者の見守りや支援が行われている。また、身体拘束に関する毎月の職員間での検討や運営推進会議を通じた検討が行われている。また、職員研修も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員全員で虐待防止の研修を行っている。普段から入居者の言動や様子を観察して、職員同士で情報交換と共有を行っている。また、職員間での会話内容が不適切にならないように意識して注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修等で、権利擁護について研修を行っており、必要な入居者が現れたときには速やかに対応できるように努めている。日頃から、新聞記事にも目を配り、掲示するなどして、活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結の際は、専門用語はできるだけ使わず、入居者や家族が理解しやすい説明を行うように心がけている。不安や疑問が解消するまで十分な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情申し立てについての説明を行っており、日常的にも意見や要望をくみ取り、運営に反映させるように努めている。年2回行っている家族懇談会では、現場職員も参加し、家族の思いを直接聞く場となっている。また、家族同士も交流できるように努めている。	家族との懇談会の機会をつくり、家族との交流を深めながら意見等の把握に取り組んでいる。家族からの意見等は、内容にも合わせながら管理者や担当職員で対応する体制をつくっている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や朝の打ち合わせ時等、意見や提案を伝える機会がある。必要に応じて、それらをどのように実践するかを検討した上で、反映されている。昨年度に引き続き、意見交換ページやヒヤリハット報告書等への記載を意識的に行ない、実践に結びつけられるように努めている。	各事業所毎に毎月の数回にわたる職員間で情報交換の取り組みが行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、日常的にも職員間で意見交換を行う機会をつくり、随時の対応にもつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日常的に、個々の職員とコミュニケーションを図ることで、状況を把握し、家庭事情や職員の体調にも配慮した職場環境や条件の整備に努めている。定期的に年2回と必要時には個別で面談をするなどして、悩みを一緒に考えたり、目標を立てたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日常的に、個々の職員とコミュニケーションを図ることで、各職員の力量や意欲等を把握し、全職員の協力を得て、積極的に研修等に参加し、資格取得を勧めている。各職員が目標を持って、挑戦できる環境や支援、体制をつくっている。キャリア段階制度を活用し、OJT指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部の懇談会等で他事業所と話をし、お互いに情報交換等を行っている。また、積極的に地域ネットワーク会議に参加したり、見学の受け入れを行う等、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談があった時点で、管理者及び職員が契約前に必ず本人に会いに行っている。そこで、本人自身から要望や不安等を聞き、本人が入居に際して安心できるように、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が安心して、契約に臨めるように、最初の相談から契約に至るまで、家族自身の不安や要望等を受け止めるため、何度でも面談を行い、疑問や不安を解消し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状態や家族の状況、介護力等を聞き、すぐに入居ではなく、同一法人内の居宅介護事業所や他事業所への紹介も含めて、その時、本人や家族にとって、最適なものを提案できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は「待つ」という姿勢を念頭におき支援をしている。各入居者の「できること」に目を向け、一覧表等を更新し、能力に合わせて参加できるような働きかけ方等を工夫している。入居者の方から「何か手伝うことはないか」と声をかけられることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	事故や著しい変化があったときはすぐに連絡し、状況説明や、今後の支援の仕方について話し合っている。日常的にも、面会時や受診時に本人の様子を伝えている。家族懇談会では、現場職員も参加し、絆づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	毎年参加していた地元の祭りをテレビで観賞したり、家族や友人、知人が面会に来やすい雰囲気を作ったりして、馴染みの場所や人との関係が途切れないように努めている。また、家族や友人との外出が安全にできるように支援している。今年度は、入居者の友人が誘い合って面会に来て楽しまれたケースがあった。	利用者の中には、入居前からの関係の方が訪問する機会が得られたり、行きつけの美容院を継続している方もあり、関係継続にもつながっている。また、家族との外出の機会をつくりながら、食事や買い物をはじめ、身内の墓参りに出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	居室で過ごす時間を大切にしながら、日に何度かは声かけをし、入居者同士が一緒に時間を過ごすことができるように努めている。行事等の写真を廊下に飾るなどして、コミュニケーションにも役立てている。食堂で過ごしている入居者には、職員が間に入り、他入居者との関わりが持てるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了した方の近況を把握したり、退居後も相談や支援に努めている。看取りを行なったご家族が野菜等を持って来てくれたり、ホームに立ち寄りいただけたたりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で、「やりたいこと」を見つけるように努めた。気づきを職員間で共有できるように、今年度も意見交換ページの記入を推奨し、活用している。会議ごとに入居者の状況や対応を検討し、実践につなげている。年一回、個別意向調査を行い、希望や意向を把握するよう努めている。	定期的に利用者一人ひとりに関する意向等の確認を行いながら、利用者への支援につなげている。また、職員間での随時の意見交換や毎月複数回にわたり実施しているカンファレンスを通じた、利用者の意向等の検討も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを個々に合わせて作成しており、全職員でアセスメント表を見直す機会を作っている。また日常の会話の中から、何気ない一言を聞きもらさず、本人の生活歴や暮らし方へのこだわりや思いを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活をできるだけ詳しく記録し、全職員で共有し、その方に合った支援方法を工夫するよう努めている。センター方式や24時間シート等を活用し、生活状況や支援状況を把握している。今年度は、24時間シートの更新を全職員で行い、入居者の現状を把握、共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランの見直し時期に、家族面談を行い、家族とも現状と今後についての情報を共有して、次期介護計画を作成している。会議内でサービス担当者会議を行い、モニタリングやアセスメントの状況について意見を出しあい、次期介護計画に反映している。	介護計画については基本6か月で見直しているが、利用者の状況等に合わせて、より短期間での見直しも行われている。また、日常的にも介護計画に合わせた記録を残しながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	昨年度に引き続き、本人の思いや状況が伝わるような記録を書くように努めている。今年度は、さらに記録やチェック表等の目的を再確認しながら取り組んでいる。また、記録等の言葉の受け取り方等の意見をその都度、職員間で伝え合うことも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	それぞれの本人や家族の状況の変化に合わせ、支援方法を工夫するよう努めている。家族などにも気軽にニーズを伝えられるよう、「無理だと思う前に、まずは相談してください。一緒に考えましょう」と普段から声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に加入して、行事には積極的に参加している。法人内での教室への参加を促し、作品を地域の文化祭に出展している。散歩や買い物等に行くことで、季節を感じたり、地域の方と交流したりして、本人が豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。今年度の法人内行事に地域の方々の参加が多く、交流ができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診時に日常の様子などをまとめた記録を作成して、入居者それぞれのかかりつけ医とも円滑なコミュニケーションがとれるよう努めている。夜間や時間外でも対応してもらえる協力関係機関の医師との関係も築いている。受診結果や薬の変更等は、業務日誌に記入して、確実に情報を共有している。	協力医とは、定期的及び随時の対応が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な支援が行われている。また、併設事業所と合わせて複数の看護職員が勤務しており、日常的な健康チェックや医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	普段から入居者の健康状態を観察し、通常と違う様子があれば看護職員に相談している。体調が不安定な入居者については、看護職員が確認を行った上で、入浴を行っている。薬の変更等、ミスがないように口頭と業務日誌での申し送りを徹底している。医療で少しでも疑問や不安があれば看護職員に確認することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合には定期的に病院へ訪問し、医師や病院との情報交換を行なっている。救急搬送を行った際に、職員も同行し情報を伝えるなど迅速な対応を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族とこまめに情報交換を行ない、今後について何度も話し合っている。「ホームで家族を看取ってもらいたい」と家族が思えるような信頼関係や環境整備に努めている。内部研修で、看取りへ向けての心構え等を学んでいる。現在、家族と何度も話し合いを重ねながら、本人の意思を尊重し、不安を軽減できるように、終末期を支援している。	利用者のホームでの看取り支援にも柔軟に対応する体制をつくっており、利用者の身体状態等の段階に合わせた話し合いを重ね、利用者や家族の意向に合わせた支援に取り組んでいる。また、定期的な職員研修を実施しており、急変時等に関する確認も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修で緊急時の対応等を学んだり、会議や研修で色々なパターンを想定してのシュミレーションを行っている。必要時には個別に看護職員から急変時の対応の仕方等を学ぶこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に数回は様々なパターンを想定し、訓練等を行っている。今年度も運営推進会議で、実際の訓練を見学してもらい、地域の方々にも理解を深めてもらえるように努めた。また地域の防災訓練にも参加し、地域にも災害時に協力を依頼している。いざという時の防災意識を職員が常に持つよう努めている。	併設事業所とも連携しながら、予告なしの避難訓練も実施しており、職員の意識向上に取り組んでいる。訓練については、地域の方にも立ち合ってもらおう機会をつくっている。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	地域の方との協力関係については、一時的な受け入れも含め、前向きな姿勢ではあるが、新たな課題も生まれている。課題の検討も含めて、関係者との継続した連携に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議や研修等で、言葉づかいや声のかけ方、関わり方などについて話し合い、常に尊厳を意識した支援に努めている。日々の関わりの中でも、声のかけ方や関わり方が適切かどうか、常に意識できるように職員同士で声をかけ合うように努めている。	運営法人で掲げている職員指針には、専門職としての自覚や利用者を尊重した対応についても掲げられており、定期的に職員が振り返る機会をつくっている。また、接遇に関する職員研修や日常的な注意喚起の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々のアセスメント表を活用して、現在の状態を全職員で把握し、自己決定しやすい声かけを工夫している。話をしっかりと聞く時間を作ったり、入居者の表情などから読み取る工夫をしている。本人が「やりたい」と思えるような関わり方や働きかけ方ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大体の1日の流れはあるが、入居者が自分のペースで生活できるように支援している。職員間でその日の活動したい内容を打ち合わせる時間を作り、充実した余暇活動や家事活動ができるようにしている。24時間シートや家事活動、余暇活動一覧表を活用し、個々のペースや特性を把握し、配慮できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個別の身だしなみチェック表を作成している。毎朝と必要時に、洗面、整髪、髭剃りなどの声かけや介助を行っている。今年度は、確実に爪の長さの確認も行えるようにチェック表の見直しを行った。日常の服を選ぶ際にも、その方の好みを取り入れるように努めている。また、行事のときには、お化粧をするなどして、おしゃれを楽しめる機会を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の好みを尊重したり、旬の食材をとり入れた献立作りを行っている。個々のできる力に着目した家事活動一覧表を作成して、一緒に食事作りや盛り付け等を行っている。今年度は、1ヶ月の献立表を食堂に掲示したり、ベランダで栽培して収穫した野菜を食材に使ったりして、食事への関心を高めている。	日常的に利用者メニューを考える機会をつくり、利用者の好みや嗜好に配慮している。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。また、身体状態に合わせた食事形態の提供や、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量と水分量を把握し、体調等に応じて、食事内容や分量を考えている。また必要時には栄養補助食品も活用している。水分量を確保するために、個人の好みに合わせて提供したり、トロミや寒天等を使用している。食器等も工夫する等して、本人の力を最大限活用して、安全に摂取できるように支援している。食事形態に違いがあっても、できる限り、見た目にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個々の状態に合わせて、声かけや介助をしている。歯科の訪問診療で、ケアの仕方についての助言を受け、日常の支援に活かしている。食事前には、口腔体操や歌ったりして、舌の運動等を行い、嚥下が少しでもスムーズにできるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	チェック表で排泄パターンを把握し、できるだけ、トイレで排泄できるように支援している。介助が必要な入居者にはさりげない声かけやトイレ誘導をしている。トイレに行く回数が多い入居者に対して、状況を把握し、医療との連携を行っている。	利用者一人ひとりに合わせた排泄記録を残しており、日常的に職員間で排泄支援に関する意見交換が行われている。トイレでの排泄を基本と考えながら、利用者の中にはパンツでの生活につながる等、排泄状態が改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝食にヨーグルト等の排便を促す食材を提供し、できるだけ自然な排便を促している。下剤の調整が必要な入居者は、個別の排便チェック表を作り、細かく記録をしている。また、排便の確認は、プライバシーを尊重しながら行っている。今年度は、下剤服薬の判断、確認手順等を見直し、見える化した。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一人ひとりの意思や希望を尊重して、入浴できるように環境を整え、ゆっくりとリラックスできるように配慮している。体調不良時には、シャワー浴や清拭でも対応している。拒否の強い方には、声かけの内容を工夫したり、時間や日を変えて声かけをするなどしている。入居者が気持ちよく入浴できるよう、職員間で意見交換を行っている。	利用者が週3回以上の入浴ができるように毎日の入浴の準備を行っており、希望等にも合わせた入浴や随時の対応も行われている。併設事業所にリフト浴が設置されており、身体状態が重い方にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の好みの明暗や温度調節などにも配慮して、入眠や休息しやすい環境づくりに努めている。日中も、体調等に配慮し、必要に応じて居室での休息を勧めている。食堂で過ごしたい入居者には、浮腫み防止のため、足を挙上するなどの工夫をしている。シーツ類や寝具は定期的に洗濯したり干したりして、清潔に快適に休める環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の医療ファイルで、服用している薬や効能等を閲覧できるようにしている。確実に服薬できるように、個々の服薬方法を一覧表にしている。薬の変更があった場合は全職員で共有し、変更前後の体調や状況の変化を記録に残すようにしている。個人の状態に合わせて、服用に寒天ゼリーを使用することもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事活動や余暇活動の「できること」を個別で一覧表にし、2ヶ月に1回、更新をしている。個人に合わせた楽しみがもてたり、能力が発揮できるように支援をしている。作品をホーム内の壁に飾り、作成後も楽しめるようにしている。ハーモニカなど昔の趣味を他入居者に披露したり、一緒に楽しむ機会を作るなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望や体調に合わせて、散歩に行ったり、好みのおやつや食材の買い物に行ったり、市内の民俗資料館や公園等への外出支援も行っている。また家族との外出や外食もできるように支援している。	日常的に利用者が散歩を兼ねて外出することができるように、事業所で自販機の設置が行われている。季節等に合わせた外出行事の他にも、その日の状況に合わせて外出も行われている。また、利用者の希望にも対応した外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出や買い物の際の会計時に、入居者がお金の受け渡しをできるように努めている。日常的な現金の所持を希望される入居者については家族とも相談して、安心して所持できる環境作りに努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者によっては、携帯電話を使用して、好きな時に家族と会話ができるように、充電を確認するなどの支援を行っている。毎年、年賀状を作成し、家族や親戚などにも出せるように支援している。家族との食事会時には手作りのプレゼントと一緒に、入居者本人が書いたメッセージカードを手渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室温はこまめに確認をして、エアコンの調整などを行っている。季節に合わせた壁面を一緒に作り、廊下に展示している。食堂では、心地よい音量でテレビを見たり、音楽を聴いたり、関心もてるような本を用意したりして、過ごしやすい環境作りに努めている。また、整理整頓を行ない、過ごしやすく、安全な環境整備に努めている。	フロア内は、天井部分に天窓があることで、採光に優れた生活環境でもある。リビングの一角に畳コーナーがあり、利用者の憩いの場所にもなっている。また、共用スペースの壁面には、利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中は食堂や畳部屋を常に開放しており、自由に新聞や広告を見たり、数人で腰かけて談話している。時には懐メロの音楽を流し、ロザさむなどの場面がみられる。共有スペースでも個々の生活や意向を大切に、自由に過ごせる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真や自分が作った作品、自宅から持ってきたなじみの品を飾るなどして、安心感や居心地の良い居室づくりに努めている。入居者の状態によっては、安全に配慮した居室や環境づくりにも力を入れている。今年度は一覧表を作成し、居室内の整理、清掃の状況の確認と必要に応じた介助を行っている。	居室には、利用者や家族の意向にも合わせた馴染みの家具類や好みの物等の持ち込みが行われている方やシンプルな方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室が広いことで、車椅子の方も過ごしやすい居室環境でもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	アセスメント(センター方式)や記録、会議等で情報収集し、安全で自立した生活を送れるように、環境整備に努めている。移動の際に危険がないように、廊下や共有スペースの物の置き場所等に配慮をしている。また、入居者の状態の変化に対応した環境整備にも努めている。		